

厚生労働行政推進調査事業費補助金（厚生労働科学特別研究事業）  
（分担）研究報告書

熊本地震発生後の神経疾患への対応に関する研究

研究分担者 中島誠 熊本大学大学院生命科学研究部神経内科学

平成28年熊本地震における神経内科の対応と問題点について検討し、今後の災害時神経疾患への対応について（難病疾患を含めて）提案をおこなった。詳細は添付の論文、PDFを参照。

熊本大学大学院生命科学研究部神経内科脳血管障害先端医療寄附講座教授

A．研究目的

熊本地震後の神経疾患への対応と、その問題点や今後の課題について検討すること。

B．研究方法

熊本大学大学院神経内科学講座および関連施設での熊本地震後の神経疾患への対応についてカルテ、インタビューを通して解析する。

（倫理面への配慮）

後ろ向き研究であり、介入ではないが、熊本大学倫理委員会で承認されている。

C．研究結果

発災後数日：神経難病患者が避難先での不自由さのために早期に損壊した自宅に帰還した患者も多く、中には受け入れ可能な福祉避難所や病院の情報を得られなかったために、神経難病患者が車中泊を余儀なくされ死亡するという痛ましい事件もみられた。患者や一般住民への迅速な情報提供が課題として残った。このためやや遅れたものの、5月6日に神経難病相談窓口を設置し、新聞や地元テレビ局を通じて広報した。

D．考察

緊急時には通信機器が使用できない状況が想定されるため緊急時の連絡方法と

連絡がとれない時の体制作りを十分に準備しておくことが重要であると思われた。平時から人工呼吸器装着患者を含む在宅難病患者の把握ならびに支援体制の整備、薬剤供給体制整備と、予備薬剤保管等を検討しておくことが重要である。また神経難病患者患者は、通常の避難所で生活できない場合も多いため、福祉避難所を各地域に設け、それを周知する必要がある。新生児医療など他の疾患領域においては、周辺都道府県との間で緊急搬送・受け入れ体制が整備されつつあるが、難病患者においても、同様の体制を整える必要がある。

E．結論

日本神経学会においても災害支援のためのガイドラインが整備されていくことになるが、各地域において、大規模災害に備えての体制の整備と、災害が生じたときの迅速な対応が求められる。

F．健康危険情報

該当なし

G．研究発表

1. 論文発表

中島誠、安東由喜雄他 熊本地震における神経内科の対応と問題点臨床神経学 2016; 56:827-31

2. 学会発表

熊本地震シンポジウム2017  
震災時の災害関連疾患とその対策  
中島誠、安東由喜雄 他 2017.4.22 熊本市

H．知的財産権の出願・登録状況

なし